

# FAO Bay of Bengal Programme (1979 – 2000) における地域概念

— その出版物の分析 —

田 中 雅 一\*

## 1 はじめに

本論の目的は、ベンガル湾を対象とする開発プログラムの出版物に注目し、そこに認められる地域概念について考察することである。具体的には、出版物のテーマの分析と漁村の女性についての報告書の内容分析を行う。

地域 area という概念は、国家単位の歴史・文化研究を克服するために提案された。その背景には、国家そのものの政治的な人為性があるという点で国家単位の研究にはつねに限界があること、国家単位の研究はしばしば、意図しないにせよナショナリスティックな言説に絡め取られる傾向があることなどにたいする反省がある。それでは国家に代わって提唱された地域とはいかなる単位なのか。

1つは生態系に基づく単位で、このような考え方はわが国では梅棹忠夫の『文明の生態史観』(1967)に始まるといってよかろう。生態系と密接に結びつくかたちでさまざまな文化単位としての地域が提唱されてきた。

また、戦略的視点からの地域概念も無視できない<sup>1)</sup>。たとえば東南アジアという概念は、1943年に日本の南進を迎え撃つためにコロンボに設置された司令部の名前に使用されたのが、その現代的な意味の起源である。サイードの『オリエンタリズム』での指摘を待つまでもなく、地域研究が植民地支配や国家利害と密接に結びついて発展してきたことは自明の事実である。地域研究が国家戦略の一部として推進されたのであるなら、地域概念もまた国家中心主義の帰結でしかない。

さらに、現代では開発や環境保全の視点から、国境を越えて地域を理解することが必須と

---

\* たなか まさかず 京都大学人文科学研究所教授 社会人類学専攻 shakti@zinbun.kyoto-u.ac.jp

なっている。生態系に基づく地域にしても戦略あるいは開発単位としての地域にしても、それはいわば上からの鳥瞰的視点という点で共通している。一国主義を越える、というスローガンにもかかわらず、地域はしばしば既存の国家の集積にすぎない、その結果、ヨーロッパ連合やアセアンといった、国家を単位とする政治的な地域連合体と限りなく重なってしまうということも確かである。

こうした鳥瞰的地域概念にたいして、松田は虫瞰図的な視点から、民衆のネットワークに注目し、下からの地域主義を主張している [松田 1993: 23]。松田はまず、先に指摘したようなヨーロッパの植民地支配やアメリカの世界戦略が地域概念を必要とし、それを生み出したということだけが問題なのではなく、「地域を地域としてまとめる〈眼差し〉自体がすでに権力的である」 [松田 1993: 23] と指摘する。そして、つぎのように自問する。「私たちはこの〈眼差し〉の前でなす術がないのだろうか。そんなことはない。地域研究が、この〈眼差し〉によって見つめられてきた側の人々と〈共にある〉ことができるならば、可能性は開けてくるに違いない。」そして、そのために必要なのは、「地域研究の出発点は実際の人々の生活共同の現場にあるということであり、……〈眼差し〉によって切りとられた（外部から与えられた）領域を自らのものへと変換・創造していく〈地域〉の自己運動の論理に注目することである」 [松田 1993: 23] と述べている。本論では、直接地域住民の視点を論じるわけではないが、このような可能性が開発プログラムに認められるかについて検討していきたい<sup>2)</sup>。

最後にアパデュライ [2004] が提案しているスケープ (-scape) という概念にも言及しておきたい。ここで彼は、現代社会を特徴づけるグローバル化をいかに理解するのか、その枠組みは何か、という視点からスケープという概念を提唱し、具体的に5つのスケープを紹介している。それらは、エスノスケープ [民族の地景]、メディアスケープ [メディアの地景]、テクノスケープ [技術の地景]、ファイナンススケープ [資本の地景]、イデオスケープ [観念の地景] の5つである。これらは、現代のグローバル化の過程においてあらたに生まれてきたスケープ (景観) であるが、土地の連続性を前提とする地域概念のアンチ・テーゼであり、もっと流動的な要素の結びつきと、それによって生まれる世界を表そうとしている概念である。アパデュライの5つのスケープ概念は、こうした土地との結びつきから解放されているところに独自性がある。

それでは、これらの複数の地域概念をどのように結びつけて理解すればいいのか。それらの関係を具体的な文脈で理解する必要がある。本研究では、とくに小規模漁業 small-scale fisheries に従事する漁民たちの自立と生活向上をめざす、国際機関主導の開発プログラムにおいて、国家やそれをこえた地域がいかに位置づけられているのか、また当の漁民たちにとって国家や地域がいかなる意味をもつのかについて考えてみたい。

ここで取りあげる地域は具体的にはベンガル湾沿岸である。また開発プログラムは国連食糧

農業機関 (Food and Agriculture Organization of the United Nations, 以下 FAO と略す) のベンガル湾プログラム (Bay of Bengal Programme, 以下 BOBP と略する) である。

以下ではこのプログラムの概要を紹介し、2つの視点から多数の報告書の分析を行う。1つはそのトピックについての分析である。もう1つは漁村の女性の地位を論じている報告書を取りあげ、より詳細に調査方法や分析の視点について考察する。女性を対象とする報告書を選んだ理由は、著者自身スリランカの漁村で調査をし、女性の地位についても論文 [田中 1992] を書いているため、他地域であってもある程度客観的に評価することができると考えたからである。最後に序論での問題意識に戻って、BOBP における地域概念について考える。

## 2 The Bay of Bengal Programme (BOBP) とは？

まず、簡単にこのプログラムが対象とする地域について概観してみたい。ベンガル湾は、『平凡社世界百科事典』で以下のように説明されている。

北緯 10 度以北のインド洋のうち、インド半島の東方に広がる海域。東限はミャンマーのアラカン海岸からアンダマン諸島を結ぶ線で、東西幅の最大は約 1,300 km。したがって湾とは名ばかりで、〈海〉と呼ぶにふさわしい広さと深さ (水深 2,000 ~ 4,000 m) とを有し、島はない。湾奥にあたる北端はガンガー (ガンジス) 川の三角州によって埋没され、さらにその前面 170 km まで大陸棚が横たわる。また、半島部の海岸にもマハナディ、ゴダーバリー、クリシュナー、カーベリーなどの三角州が並ぶ。9 ~ 10 月のころ湾上に発生するサイクロンは西進または北西進して、半島部やガンガー川三角州に風水害や高潮災害をもたらす。しかし、湾上を吹きわたる南西および北東モンスーンは広大なインド亜大陸に恵みの雨をもたらす役割を担っており、この湾がインドに与えるプラスの面は計り知れないほど大きい。アラビア海と同じく、古くから海上交易が盛んに行われ、カルカッタ、マドラスをはじめ現在も湾岸に多数の港が立地している。

この説明から明らかなように、ベンガル湾は国でいうと、スリランカ、インド、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、マレーシアなどに囲まれた海域である。そして、この地域は、古くは海のシルクロードと言われる海上交易の重要な航路を含んでいたし、またヒンドゥー文化の東進や仏教の伝播、イスラームの影響、さらに英国植民地下におけるスリランカ、マレーシア、ビルマなどに見られるインド系プランテーション労働者の入植を考えると、これらの湾岸諸国が密接に結びついていたことがわかる。漁業に関して言えば、スリランカと南インドでは筏や地引き網を乗せる船など共通する漁具や漁船が認められる。1980 年代後半から取り締まりが

きびしくなったが、密輸を含む両国間の移動は珍しくはなかった。

FAOは1905年に国際連盟のもとにローマに設置された万国農事協会 International Institute of Agriculture (IIA)を前身とし、世界の農作物や漁獲高の増化、流通の改善、栄養水準や生活水準の向上を目的として1945年10月に発足した。そして1951年に本部をローマに移し、今日に至っている。2002年現在183カ国とEUが参加している。その活動には、農業、林業、水産業などの第一次産業や栄養についての情報の提供、会議の開催、また世界各地における開発事業の支援などがある。次章で説明するBOBPもこうしたFAO主導の地域開発事業の1つである。

BOBPは1979年に正式に発足した。準備段階として1974年にThe International Indian Ocean Fishery Survey and Development Programme (Indian Ocean Programme)が発足し、さらに1977年にProject for the Development of Small-Scale Fisheries in the Bay of Bengalが始まった。これらの研究開発プログラムの共通認識はベンガル湾の海洋資源の豊かさと沿岸小規模漁民の貧困であった。いかに資源を生かすか、それをどのようにして漁民の生活向上に結びつけるのか、ということが課題としてあげられたのである。基本的なアプローチは現場主義で、触媒 catalytic と臨床 consultative をキーワードとしている。

本部は南インド、タミルナードゥ州の州都であるチェンナイ（マドラス）にあり、小規模漁業の生産向上と漁師の生活改善を目的とする。対象となっているのはベンガル湾を主たる生活資源として生活している500万人の漁民である。各地域で、漁業省や当事者を取り込むかたちでの調査とワークショップ、出版を重ねている。

BOBPは、FAOの主導のもとベンガル湾に面した国家、すなわちインド（西ベンガル、オリッサ、アーンドラ・プラデーシュ、タミルナードゥ、ケーララの5州、ただし、連邦直轄地のボンディシェリーとアンダマン・ニコバル諸島を除く）、スリランカ、バングラデシュ、マレーシア、タイ、インドネシアの6カ国にモルディヴが加わった7カ国の行政機関が推進する広域開発プログラムである（図1）。その対象となる人々は、ベンガル湾に面した海域で漁業を営む小規模生産漁民であり、文化人類学の研究対象にほぼ対応する。それゆえ、BOBPには、一方にきわめて一般的な、生産、流通技術の改良、医療や衛生面の向上という目的とそれを可能にする普遍的な科学技術への信頼があり、他方で漁業活動に影響を与える、個別の、さまざまな文化的価値への配慮が認められると考えられる。この2つが具体的にどう結びついているのかもまたBOBPの活動を考える上で重要である。

発足後の歴史は第1期から第3期までの3つに分けられている。第1期の支援国はスウェーデンで1986年まで続いた。1987年から始まる第2期には、デンマークが加わり1994年まで続く。1995年から2000年まで続く第3期は、スウェーデンにかわり日本が支援国となる。

FAO主導のプログラムは2000年で終わるが、その後は、BOBP参加国自身が開発プログ

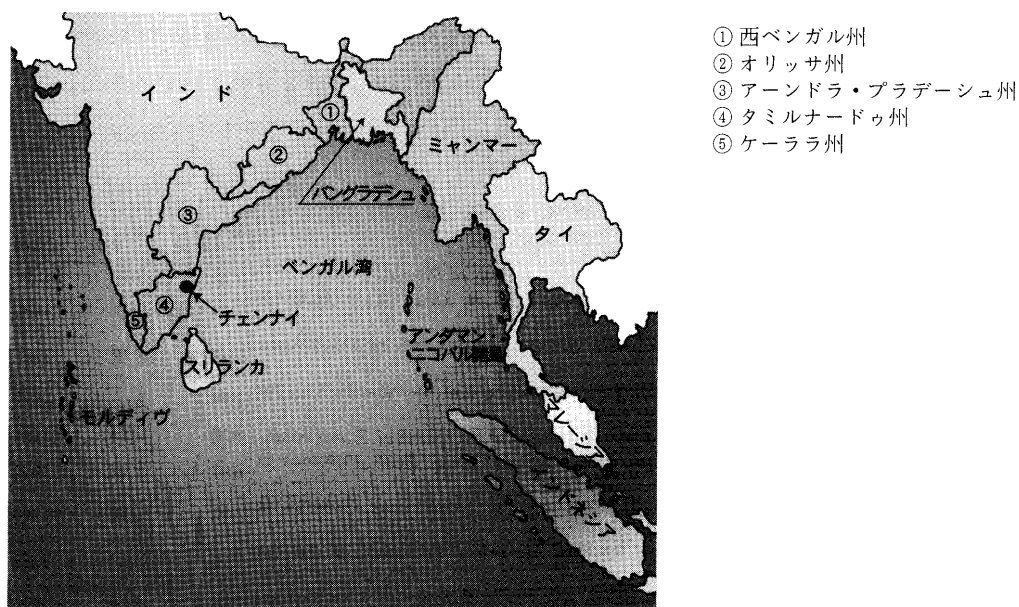


図1 ベンガル湾

ラムを引き続き推進することになった。この新しい機構を BOBP-IGO という。IGO は政府間組織 Inter-Governmental Organization を表す。ただし、インド、バングラデシュ、スリランカ、モルディヴの 4 カ国のみが、あたらしい機構に参加した<sup>3)</sup>。参加国の数だけから見ると、実質規模は縮小し、東南アジア側をまったくカバーしていないことになる。なお、これらの国々が基本事項に合意したのは 2003 年春だったため、第 3 期の終了から 2003 年までの 2 年間は、実質 BOBP の活動が続いていた。

さて、第 1 期は技術改良や流通に関するインフラの整備が中心的な事業であった。特徴的な活動として女性の積極的な参加を推進し、教育の向上や小規模な金融活動を導入しようとした。またエビや海草の養殖を推進した。

第 2 期は漁村に焦点を当て、生活向上をめざした。ラジオ放送や市場の整備を計っている。

第 3 期は資源管理を主要なテーマとする。他に、安全や捕獲後の処理が重要なテーマである。

BOBP の活動で注目しているのは、膨大な出版物である。2000 年末現在で、報告集 226 冊、ガイド・マニュアルが 24 冊、主題別書誌 6 冊、季刊の *Bay of Bengal News* が 84 冊、リーフレットが 9 冊、それ以外の出版物 (ポスターやカレンダーなどを含む) 26、さらにビデオの作成なども行っている。

3 報告書のトピック分析

さて、つぎに、啓蒙的な出版物やカレンダーなどを除外し、*Working Paper* や *Report* として出版された調査報告やワークショップについての出版物 198 冊を分類したい(表1)。そして、そこから BOBP の活動のあり方に迫りたい。

表1 BOBP 出版物一覧(1)

番号	タイトル(一部簡略)	テーマ	地域	出版年
REP4	<i>Role of Women in Small-Scale Fisheries of the Bay of Bengal.</i>	女性	全域	1980
REP5	<i>Report of the Workshop on Social Feasibility in Small-Scale Fisheries Development.</i>	社会・経済	全域	1980
REP6	<i>Report of the Workshop on Extension Service Requirements in Small-Scale Fisheries.</i>	教育	全域	1980
REP8	<i>Pre-Feasibility Study of a Floating Fish Receiving and Distribution Unit for Dubla.</i>	市場	B	1980
REP9	<i>Report of the Training Course for Fish Marketing Personnel of Tamil Nadu.</i>	市場	I(T)	1980
REP10(1)	<i>Report of Consultation on Stock Assessment for Small-Scale Fisheries in the Bay of Bengal.</i>	資源	全域	1980
REP10(2)	<i>Report of Consultation on Stock Assessment for Small-Scale Fisheries in the Bay of Bengal.</i>	資源	全域	1980
REP12	<i>Report of the Training Course for Fish Marketing Personnel of Andhra Pradesh.</i>	市場	I(A)	1981
REP15	<i>Report of the Consultation-cum-Workshop on Development of Activities for Improvement of Coastal Fishing Families.</i>	家族	全域	1982
REP17	<i>Report of Investigations to Improve the Kattumarams of India East Coast.</i>	漁船	I(T/A)	1984
REP18	<i>Motorization of Country Craft. Bangladesh,</i>	漁船	B	1984
REP20	<i>Costal Aquaculture Demonstration Project for Shrimp and Finfish at Ban Merbok, Kedah, Malaysia.</i>	養殖	MA	1984
REP21	<i>Income-earning Activities for Women from Fishing Communities in Sri Lanka. E. Drewe.</i>	女性	S	1985
REP23	<i>Summary Report of BOBP Fishing Trials and Demersal Resources Studies in Sri Lanka.</i>	資源	S	1986
REP24	<i>Fisherwomen's Activities in Bangladesh. A Participatory Approach to Development. P. Natpracha.</i>	女性	B	1986
REP25	<i>Attempts to Stimulate Development Activities in Fishing Communities of Adirampattinam</i>	その他	I(T)	1986
REP27	<i>Activating Fisherwomen for Development through Trained Link Workers in Tamil Nadu, India. E. Drewe</i>	女性	I(T)	1986
REP28	<i>Small-Scale Aquaculture Development Project in South Thailand: Results and Impact. E. Drewe.</i>	養殖	T	1986
REP29	<i>Towards Shared Learning: An Approach to Nonformal Adult Education for Marine Fisherfolk of Tamil Nadu</i>	教育	I(T)	1986
REP30	<i>Summary Report of Fishing Trials with Large-Mesh Driftnets in Bangladesh</i>	網	B	1986
REP31	<i>In-service Training Programme for Marine Fisheries Extension Officers of Orissa, India. U. Tietze</i>	教育	I(O)	1986
REP32	<i>Bank Credit for Artisanal Marine Fisherfolk in Orissa, India. U. Tietze</i>	貸し付け	I(O)	1987
REP33	<i>Nonformal Primary Education for Children of Marine Fisherfolk in Orissa, India. U. Tietze, N. Ray.</i>	教育	I(O)	1987
REP34	<i>The Coastal Set Bagnet Fishery of Bangladesh—Fishing Trials and Investigations. S. E. Akerman.</i>	網	B	1986
REP35	<i>Brackishwater Shrimp Culture Demonstration in Bangladesh. M. Karim</i>	養殖	B	1987
REP36	<i>Hilsa Investigations in Bangladesh.</i>	資源	B	1987
REP37	<i>High-Opening Bottom Trawling in Tamil Nadu, Gujarat and Orissa, India: A Summary of Effort and Impact.</i>	網	I(T)	1987
REP39	<i>Investigations on the Mackerel and Scad Resources of the Malacca Straits</i>	資源	IN	1987
REP40	<i>Tuna in the Andaman Sea.</i>	資源	I/T/IN	1987
REP41	<i>Studies of the Tuna Resources in the EEZs of Sri Lanka and Maldives.</i>	資源	MAL	1988

## FAO Bay of Bengal Programme (1979–2000) における地域概念 (田中)

表1 BOBP 出版物一覧(2)

番号	タイトル (一部簡略)	テーマ	地域	出版年
REP45	<i>Gracilaria Production and Utilization in the Bay of Bengal Region.</i>	資源	T	1990
REP46	<i>Exploratory Fishing for Large Pelagic Species in the Ma/dives. R. C. Anderson, A. Waheed,</i>	捕獲技術	MAL	1990
REP47	<i>Exploratory Fishing for Large Pelagic Species in Sri Lanka. R. Maldeniya, S. L. Suraweera,</i>	捕獲技術	S	1991
REP49	<i>Introduction of New Small Fishing Craft in Kerala, India. O. Gulbrandsen, M. R. Anderson.</i>	漁船	I(K)	1992
REP51	<i>Report of the Seminar on the Mud Crab Culture and Trade.</i>	養殖	MA	1992
REP52	<i>November 1991. Ed. C. L. Angell. (Madras, 1992.)</i>	養殖	I	1992
REP53	<i>Feeds for Artisanal Shrimp Culture in India—Their Development and Evaluation. J. F. Wood et al.</i>	教育	S	1992
REP54	<i>A Radio Programme for Fisherfolk in Sri Lanka, R. N. Roy(Madras, 1992.)</i>	漁船	I	1993
REP55	<i>Developing and Introducing a Beachlanding Craft on the East Coast of India. V. L. C. Pietersz.</i>	貸し付け	S	1992
REP56	<i>A Shri Lanka Credit Project to Provide Banking Services to Fisherfolk. C. Fernando, D. Attanayake.</i>	資源	S	1993
REP57	<i>A Study on Dolphin Catches in Shri Lanka. P. Dayaratne, L. Joseph.</i>	漁船	IN	1993
REP58	<i>Introduction of New Outrigger Canoes in Indonesia. G. Pajot, O. Gulbrandsen.</i>	漁船	B	1993
REP60	<i>Development of Canoes in Shri Lanka. G. Pajot, O. Gulbrandsen.</i>	貸し付け	IN	1993
REP61	<i>Small Offshore Fishing Boats in Shri Lanka. G. Pajot.</i>	漁船	S	1993
REP62	<i>Fisheries Extension in the Maldives. A. M. H. Heelas.</i>	教育	MAL	1994
REP63	<i>Small-scale Oyster Culture on the West Coast of Peninsular Malaysia. D. Nair, R. Hall, C. L. Angell.</i>	養殖	MA	1993
REP64	<i>Chandi Boat Motorization Projects and Their Impacts. R. Hall, A. Kashem</i>	漁船	B	1994
REP65	<i>Learning by Doing in Bangladesh. : Extension Systems Development for Coastal and Estuarine Fisherfolk Communities.</i>	教育	B	1994
REP66	<i>Promotion of Small-scale Shrimp and Prawn Hatcheries in India and Bangladesh. C. L. Angell.</i>	養殖	I/B	1994
REP67	<i>The Impact of the Environment on the Fisheries of the Bay of Bengal.</i>	資源	全域	1994
REP68	<i>Fisheries Extension Services: Learnings from a Project in Ranong, Thailand. R. N. Roy.</i>	教育	T	1994
REP71	<i>Towards Sustainability: Needs and Concerns of Aquatic Resources and Fisheries in the Bay of Bengal Region</i>	資源	全域	1996
REP72	<i>Sri Lanka/FAO National Workshop on Development of Community-Based Fishery Management</i>	資源管理	全域	1998
REP74	<i>National Workshop on Fisheries Resources Development and Management in Bangladesh.</i>	資源	全域	1997
REP76	<i>Workshop on Integrated Reef Resources Management in the Maldives. Male, Maldives</i>	資源	全域	1997
REP78	<i>Community-Based Fisheries Management in Phang-Nga Bay</i>	資源管理	T	1998
REP79	<i>Carrying Capacity Assessment of Pulau Payar Marine Park, Malaysia. Li Ching Lim.</i>	資源	MA	1998
REP81	<i>Report of the Workshop on Smart Partnerships in Fisheries Management, Penang, Malaysia.</i>	資源管理	全域	1999
REP82	<i>Report of the Workshop on Precautionary Approach to Fisheries Management, Medan, Indonesia.</i>	資源管理	IN	1999
REP84	<i>Report of the Expert Consultation on cleaner Fishery Harbours and fish quality assurance 25-28</i>	港湾	全域	2000
REP86	<i>Report of the Regional Symposium on Marine Protected Areas and their Management</i>	資源管理	全域	2000
REP87	<i>An Acoustic Approach to Resource Mapping of Pulau Payar's Coral Reef</i>	資源	MA	2000
REP88	<i>A Review of the Status and Trends of Exported Ornamental Fish Resources and their Habitats in Sri Lanka</i>	資源	S	2000
REP90	<i>Report of the National Workshop on the Code of Conduct for Responsible Fisheries. October.</i>	資源管理	全域	2001
WOR1	<i>Investment Reduction and Increase in Service Life of Kattumaram Logs. R. Balan.</i>	漁船	全域	1980
WOR2	<i>Inventory of Kattumarams and their Fishing Gear in Andhra Pradesh and Tamil Nadu. T. R. Menon.</i>	漁船	I(A/T)	1980
WOR3	<i>Improvement of Large-Mesh Driftnets for Small-Scale Fisheries in Sri Lanka. G. Pajot.</i>	網	S	1980

人 文 学 報

表1 BOBP 出版物一覧(3)

番号	タイトル(一部簡略)	テーマ	地域	出版年
WOR4	<i>Inboard Motorization of Small G. R. P Boats in Sri Lanka</i>	漁船	S	1980
WOR5	<i>Improvement of Large-Mesh Driftnets for Small-Scale Fisheries in Bangladesh. G. Pajot.</i>	網	B	1980
WOR6	<i>Fishing Trials with Bottom-Set Longlines in Sri Lanka. G. Pajot, K. T. Weerasooriya.</i>	網	S	1980
WOR7	<i>Technical Trials of Beachcraft Prototypes in India. O. Gulbrandsen, G. P. Gowling, R. Ravikumar.</i>	網	I	1980
WOR8	<i>Current Knowledge of Fisheries Resources in the Shelf Area of the Bay of Bengal. B. T. A. Raja.</i>	資源	全域	1980
WOR9	<i>Boatbuilding Materials for Small-Scale Fisheries in India.</i>	漁船	I	1980
WOR10	<i>Fishing Trials with High Opening Bottom Trawls in Palk Bay, Tamil Nadu, India. G. Pajot, J. Crockett.</i>	捕獲技術	I(T)	1980
WOR11	<i>The Possibilities for Technical Cooperation between Developing Countries (TCDC) in Fisheries E. H. Nicholas.</i>	その他	全域	1981
WOR12	<i>Trials in Bangladesh of Large-Mesh Driftnet Construction. G. Pajot, T. K. Das.</i>	網	B	1981
WOR13	<i>Trials of Two-Boat Bottom Trawling in Bangladesh. G. Pajot, J. Crockett.</i>	漁船	B	1982
WOR14	<i>Three Fishing Villages in Tamil Nadu: A Socio-Economic Study with Special Reference to the Role and Status of Women. E. Drewes.</i>	社会・経済	I(T)	1982
WOR15	<i>Pilot Survey of Driftnet Fisheries in Bangladesh. M. Bergstrom.</i>	網	B	1982
WOR16	<i>Further Fishing Trials with Bottom Longlines in Sri Lanka.</i>	網	S	1982
WOR17	<i>Exploration of the Possibilities of Coastal Aquaculture Development in Andhra Pradesh.</i>	養殖	I(A)	1982
WOR18	<i>Review of Brackishwater Aquaculture Development in Tamil Nadu. K. Chalayondeja, A. Saraya.</i>	養殖	I(T)	1982
WOR19	<i>Coastal Village Development in Four Fishing Communities of Adirampattinam, Tamil Nadu, India. F W Blase.</i>	社会・経済	I(T)	1982
WOR20	<i>Further Trials of Mechanized Trawling for Food Fish in Tamil Nadu, India. G. Pajot et al.,</i>	漁船	I(T)	1982
WOR21	<i>Improved Deck Machinery and Layout for Small Coastal Trawlers. G. Pajot et al.</i>	漁船	全域	1983
WOR22	<i>The Impact of Management Training on the Performance of Marketing Officers in State Fisheries Corporations.</i>	教育	I(T/A)	1983
WOR23	<i>Review of Experiences with and Present Knowledge about Fish Aggregating Devices. M. Bergstrom.</i>	網	全域	1983
WOR24	<i>Traditional Marine Fishing Craft and Gear of Orissa. P. Mohapatra.</i>	漁船	I(O)	1986
WOR25	<i>Fishing Craft Development in Kerala: Evaluation Report. O. Gulbrandsen.</i>	漁船	I(K)	1984
WOR26	<i>Commercial Evaluation of IND-13 Beachcraft at Uppada, India. R. Ravikumar.)</i>	漁船	I(A)	1984
WOR27	<i>Reducing the Fuel Costs of Small Fishing Boats. O. Gulbrandsen. (Madras, 1986.)</i>	漁船	全域	1986
WOR28	<i>Fishing Trials with Small-Mesh Driftnets in Bangladesh. G. Pajot, T. K. Das.</i>	網	B	1984
WOR29	<i>Artisanal Marine Fisheries of Orissa: A Techno-Demographic Study. M. H. Kalavathy, U. Tietze.</i>	社会・経済	I(O)	1984
WOR30	<i>Mackerels in the Malacca Straits.</i>	資源	IN	1985
WOR31	<i>Tuna Fishery in the EEZs of India, Maldives and Sri Lanka.</i>	資源	I/MAL/S	1985
WOR32	<i>Pen Culture of Shrimp in the Backwaters of Killai, Tamil Nadu: A study of Techno-economic and Social Feasibility.</i>	養殖	I(T)	1985
WOR33	<i>Factors that Influence the Role and Status of Fisherwomen. K. Anbarasan.</i>	女性	I(T)	1985
WOR34	<i>Pilot Survey of Set Bagnet Fisheries of Bangladesh. A. Kashem, A. Ikbal.</i>	網	B	1985
WOR35	<i>Pen Culture of Shrimp in the Backwaters of Killai, Tamil Nadu. M. Karim, S. V. C. Bose.</i>	養殖	I(T)	1985
WOR36	<i>Marine Fishery Resources of the Bay of Bengal. K. Sivasubramaniam.</i>	資源	全域	1985
WOR37	<i>A Review of the Biology and Fisheries of Hilsa Ilisha in the Upper Bay of Bengal. B. T. A. Raja.</i>	資源	I/B	1985
WOR38	<i>Credit for Fisherfolk: The Experience in Adirampattinam, Tamil Nadu, India. R. S. Anbarasan, O. Fernandez.</i>	貸し付け	I(T)	1986
WOR39	<i>The Organization of Fish Marketing in Madras Fishing Harbour. M. H. Kalavathy.</i>	市場	I(T)	1985



## FAO Bay of Bengal Programme (1979 - 2000) における地域概念 (田中)

表1 BOBP 出版物一覧 (4)

番号	タイトル (一部簡略)	テーマ	地域	出版年
WOR40	<i>Promotion of Bottom Set Longlining in Sri Lanka.</i> K. T. Weerasooriya, S. S. C. Pieris, M. Fonseka.	網	S	1985
WOR41	<i>The Demersal Fisheries of Sri Lanka.</i> K. Sivasubramaniam, R. Maldeniya.	資源	S	1985
WOR42	<i>Fish Trap Trials in Sri Lanka.</i> (Based on the report of T. Hammerman).	網	S	1986
WOR43	<i>Demonstration of Simple Hatchery Technology for Prawns in Sri Lanka.</i>	養殖	S	1986
WOR44	<i>Pivoting Engine Installation of Beachlanding Boats.</i> A. Overa, R. Ravikummar.	漁船	全域	1986
WOR45	<i>Further Development of Beachlanding Craft in India and Sri Lanka.</i> A. Overa, R. Ravikummar, O Gulbrandsen, G. Gowing.	漁船	I/S	1986
WOR46	<i>Experimental Shrimp Farming in Ponds in Polekurru, Andhra Pradesh, India.</i> J. A. J. Janssen et al.	養殖	I(A)	1986
WOR47	<i>Growth and Mortality of the Malaysian Cockle (Anadara granosa L.) under Commercial Culture</i>	養殖	MA	1986
WOR48	<i>Fishing Trials with High Opening Bottom Trawls from Chandipur Orissa, India.</i> G. Pajot, B. B. Mohapatra.	漁船	I(O)	1986
WOR49	<i>Pen Culture of Shrimp by Fisherfolk: The BOBP Experience in Killai, Tamil Nadu, India.</i> E. Drewes, G. Rajappan.	養殖	I(T)	1987
WOR50	<i>Experiences with Manually Operated Net-Braiding Machine in Bangladesh.</i> B. C. Gillgren A Kashem.	網	B	1986
WOR51	<i>Hauling Devices for Beachlanding Craft.</i> A. Overa, P. A. Hemmingyth.	網	全域	1986
WOR52	<i>Experimental Culture of Seaweeds (Gracilaria Sp.) in Penang, Malaysia.</i>	養殖	MA	1987
WOR53	<i>Atlas of Deep Water Demersal Fishery Resources in the Bay of Bengal.</i> Nishida, K. Sivasubramaniam.	資源	全域	1986
WOR54	<i>Experiences with Fish Aggregating Devices in Sri Lanka.</i> K. T. Weerasooriya.	網	S	1987
WOR55	<i>Study of Income, Indebtedness and Savings among Fisherfolk of Orissa, India.</i> T. Mammo.	社会・経済	I(O)	1987
WOR56	<i>Fishing Trials with &amp; Beachlanding Craft at Uppada, Andhra Pradesh, India.</i> L. Nyberg.	漁船	I(A)	1987
WOR57	<i>Identifying Extension Activities for Fisherwomen in Vishakhapatnam District, Andhra Pradesh, India.</i> D. Tempelman	女性	I(A)	1987
WOR58	<i>Shrimp Fisheries in the Bay of Bengal.</i> M. Van der knaap.	資源	全域	1989
WOR59	<i>Fishery Statistics in the Bay of Bengal.</i> T. Nishida	その他	全域	1988
WOR60	<i>Pen Culture of Shrimp in Chilaw, Sri Lanka.</i> D. Reyntjens.	養殖	S	1989
WOR61	<i>Development of Outrigger Canoes, Sri Lanka.</i> O. Gulbrandsen.	漁船	S	1990
WOR62	<i>Silvi-Pisciculture Project in Sunderbans, West Bengal.</i>	養殖	I(B)	1990
WOR63	<i>Shrimp Seed Collectors of Bangladesh. (Based on a study by UBINIG.)</i>	養殖	B	1990
WOR64	<i>Reef Fish Resources Survey in the Maldives.</i> M. Van Der Knaap et al.,	資源	MAL	1991
WOR65	<i>Seaweed (Gracilaria Edulis) Farming in Vedalai and Chinnapalam, India.</i>	養殖	I(T)	1991
WOR66	<i>Improving Marketing Conditions for Women Fish Vendors in Besant Nagar, Madras.</i> K. Menezes.	市場	I(T)	1991
WOR67	<i>Design and Trial of Ice Boxes for Use on Fishing Boats in Kakinada, India.</i> I. J. Clucas.	漁船	I(A)	1991
WOR68	<i>The By-Catch from Indian Shrimp Trawlers in the Bay of Bengal.</i>	資源	全域	1991
WOR69	<i>Agar and Alginate Production from Seaweed in India.</i> J. J. W. Coopen, P. Nambiar.	資源	I	1991
WOR70	<i>Kattumaram Fisheries and Fisherfolk—A Study in Kothapatnam-Pallipalem, Andhra Pradesh.</i>	社会・経済	I(A)	1992
WOR71	<i>Manual Boat Hauling Devices in the Maldives.</i>	網	MAL	1991
WOR72	<i>Giant Clams in the Maldives—A Stock Assessment and Study of their Potential for Culture.</i> J. R. Barker.	資源	MAL	1991
WOR73	<i>Small-Scale Culture of the Flat Oyster (Ostrea folium) in Pulau Langkawi, Kedah, Malaysia.</i> D. Nair, B. Lindeblad.	養殖	MA	1991
WOR74	<i>A Study of the Performance of Selected Small Fishing Craft on the East Coast of India.</i> G. El. Gendy.	漁船	I	1992
WOR75	<i>Fishing Trials with Beachlanding Craft at Thirumulaivasal, Tamil Nadu, India, 1989-1992.</i>	漁船	I(T)	1992
WOR76	<i>Status and Needs of Fisherfolk: Vaavu, Meemu and Faafu Atolls, Maldives.</i>	社会・経済	MAL	1991
WOR77	<i>Development of Canoe Fisheries in Sumatera, Indonesia.</i> O. Gulbrandsen, G. Pajot.	漁船	IN	1992
WOR78	<i>The Fisheries and Fisherfolk of Nias Island, Indonesia.</i>	社会・経済	IN	1991

人 文 学 報

表1 BOBP 出版物一覽(5)

番号	タイトル(一部簡略)	テーマ	地域	出版年
WOR79	<i>Review of the Beche De Mer (Sea Cucumber) Fishery in the Maldives. L. Joseph.</i>	資源	MAL	1992
WOR80	<i>Reef Fish Resources Survey in the Maldives—Phase Two. R. C. Anderson, Z. Waheed, M. Rasheed, A. Arif.</i>	資源	MAL	1992
WOR81	<i>Exploratory Fishing for Large Pelagic Species in South Indian Waters. J. Gallene, R. Hall.</i>	資源	全域	1992
WOR82	<i>Cleaner Fishery Harbours in the Bay of Bengal. Compiled by R. Ravikumar.</i>	港湾	全域	1992
WOR83	<i>Survey of Fish Consumption in Madras. MARG (Marketing and Research Group), Madras, India.</i>	消費	I(T)	1992
WOR84	<i>Flyingfish Fishing on the Coromandel Coast. G. Pajot, C. R. Prabhakaradu.</i>	網	I	1993
WOR85	<i>Processing and Marketing of Anchovy in the Kanniyakumari District of South India</i>	市場	I(T)	1992
WOR86	<i>Nursery Rearing of Tiger Shrimp Post-Larvae in West Bengal, India. H. Nielsen, R. Hall.</i>	養殖	I(B)	1993
WOR87	<i>Market Study of Tiger Shrimp Fry in West Bengal, India. M. M. Raj, R. Hall.</i>	市場	I(B)	1993
WOR88	<i>The Shrimp Fry By-Catch in West Bengal, India. B. K. Banerjee, H. Singh.</i>	資源	I(B)	1993
WOR89	<i>Studies of Interactive Marine Fisheries of Bangladesh. M. S. Islam et al.</i>	捕獲技術	I(B)	1993
WOR90	<i>Socioeconomic Conditions of Estuarine Set Bagnet Fisherfolk in Bangladesh. K. T. Thomson, S. M. D. Jahan, M. S. Husstan.</i>	社会・経済	B	1993
WOR91	<i>Further Exploratory Fishing for Large Pelagic Species in South Indian Waters. G. Pajot.</i>	資源	全域	1993
WOR92	<i>Cage Nursery Rearing of Shrimp and Prawn Fry in Bangladesh. C. Angell.</i>	養殖	B	1994
WOR93	<i>Dealing with Fishery Harbour Pollution—The Phuket Experience. R. Ravikumar.</i>	港湾	T	1994
WOR94	<i>Biosocioeconomic Assessment of the Effect of the Estuarine Set Bagnet on the Marine Fisheries of Bangladesh.</i>	網	B	1994
WOR95	<i>Biosocioeconomic Assessment of the Effect of Fish Aggregating Devices in the Tuna Fishery in the Maldives.</i>	網	MAL	1994
WOR96	<i>Biosocioeconomics of Fishing for Small Pelagics along the Southwest Coast of Sri Lanka.</i>	資源	S	1994
WOR97	<i>The Effect of Artificial ReefInstallation of the Biosocioeconomics of Small-Scale Fisheries in RanongProvince.</i>	網	T	1994
WOR98	<i>Biosocioeconomics of Fishing for Shrimp in Kuala Sepetang, Malaysia. A. A. Nuruddin, Lim Chai Fong.</i>	社会・経済	MA	1994
WOR99	<i>Biosocioeconomics of Fishing for Shrimp in the Langkat District, on the East Coast of North Sumatera, Indonesia.</i>	社会・経済	IN	1994
INF3	<i>Marine Small-Scale Fisheries of India: A General Description Marine Small-Scale Fisheries of Andhra Pradesh.</i>	社会・経済	I	1982
INF5	<i>Marine Small-Scale Fisheries of Tamil Nadu: A General Description</i>	社会・経済	I(T)	1983
INF6	<i>Marine Small-Scale Fisheries of Sri Lanka: A General Description</i>	社会・経済	S	1984
INF7	<i>Marine Small-Scale Fisheries of Orissa: A General Description</i>	社会・経済	I(O)	1984
INF8	<i>Marine Small-Scale Fisheries of Bangladesh: A General Description</i>	社会・経済	B	1985
INF9	<i>Food and Nutrition Status of Small-Scale Fisherfolk in India's East Coast States: A Desk Review and Resources</i>	社会・経済	I	1986
INF11	<i>Marine Small-Scale Fisheries of West Bengal. An Introduction.</i>	社会・経済	I(B)	1990
INF12	<i>The Fisherfolk of Puttalam, Chilaw, Galle and Matara Districts, Sri Lanka.</i>	社会・経済	S	1991
MIS1	<i>Fishermen's Cooperatives in Kerala: A Critique. J. Kurien.</i>	社会・経済	I(K)	1980
MIS2	<i>Consultation on Social Feasibility of Coastal Aquaculture. Madras, India, 26 November 1 December, 1984.</i>	養殖	全域	1985
MIS3	<i>Artisanal Marine Fisherfolk of Orissa.</i>	社会・経済	I(O)	1985
MIS4	<i>Studies on Mesh Selectivity and Performance of the New Fish-cum-Prawn Trawl at Pesalai, Sri Lanka. M. S. M. Siddeek.</i>	漁船	S	1986
MIS5	<i>Motorization of Dinghy Boats in Kasafal, Orissa. S. Johansen, O. Gulbrandsen.</i>	漁船	I(O)	1986
MIS6	<i>Helping Fisherfolk to Help Themselves: A Study in People's Participation.</i>	社会・経済	全域	1990
MIS7	<i>The Shark Fisheries of the Maldives R. C. Anderson and H. Ahmed, Ministry of Fishing and Agriculture.</i>	社会・経済	MAL	1993
MIS8	<i>Economics of Artisanal and Mechanized Fisheries in Kerala—A Study on costs and Earnings of Fishing Units</i>	社会・経済	I(K)	1982
PHF1	<i>Post-Harvest Fisheries Overview of the East Coast of India.</i>	社会・経済	I	1982
PHF6	<i>Credit Availability for Marine Artisanal Fisherfolk Andhra Pradesh and Orissa.</i>	貸し付け	I(A/O)	1982

FAO Bay of Bengal Programme (1979-2000) における地域概念 (田中)

表1 BOBP 出版物一覧 (6)

番号	タイトル (一部簡略)	テーマ	地域	出版年
PHF7	<i>A Study of Marketing Practices and Channels for Traditionally Processed Fish in Andhra Pradesh and Orissa.</i>	市場	I(A/O)	1982
PHF8	<i>Sustainable Income Enhancement Programme for Small-Scale Fishing Communities—Bangladesh.</i>	社会・経済	B	1982
PHF10	<i>Socio-Economic Methodologies for Coastal Fishing Communities: The Example of Set Bagnet Communities in Bangladesh.</i>	社会・経済	B	1982
PHF11	<i>Rural Credit An Assessment of Sources and Types Available in Bangladesh by M. Hannan.</i>	貸し付け	B	1982
PHF12	<i>Caught in Their Own Nets: A Social Study of Set Bagnet Fishing Communities in Bangladesh (in Bengali)</i>	社会・経済	B	1982
PHF13	<i>Small-Scale Fish Marketing in Tamil Nadu—an Alternate Fish Container for Women Petty Fish Traders.</i>	市場	I(T)	1982
PHF14	<i>Introduction of an Improved Fish Smoking Method in Andhra Pradesh, India.</i>	その他	I(A)	1982
PHF15	<i>Problems and Prospects of Small-Scale Cycle Fish Traders in Sri Lanka.</i>	市場	S	1982
PHF16	<i>Post-Harvest Fisheries Overview, Bangladesh.</i>	社会・経済	B	1982
PHF17	<i>Post-Harvest Fisheries Overview, Sri Lanka.</i>	社会・経済	S	1982
MM1	<i>Basic needs of 39 Coastal Fishing Communities in Kanniyakumari District, TamilNadu, India</i>	社会・経済	I(T)	1982
MM2	<i>Fishing Patterns and Intensity in Kanniyakumari District, India</i>	社会・経済	I(T)	1982
MM3	<i>Skill Gaps and Training Needs Analysis of the Department of Fisheries, Tamil Nadu.</i>	社会・経済	I(T)	1982
MM4	<i>Strengthening Monitoring and Evaluation and Management Information Systems in the Department of Fisheries.</i>	社会・経済	I(T)	1982
MM5	<i>Strengthening Monitoring and Evaluation and the Management Information System, Sri Lanka</i>	社会・経済	S	1982
DIFD1	<i>Study on the impact of the DFID Post-Harvest Fisheries Project.</i>	社会・経済	全域	1982
DIFD2	<i>Study on the impact of the DFID Post-Harvest Fisheries Project.</i>	社会・経済	全域	1982

地域欄の略号

B	バングラデシュ	IN	インドネシア
I	インド	MA	マレーシア
I(A)	アーンドラ・プラデーシュ州	MAL	モルディヴ
I(B)	西ベンガル州	S	スリランカ
I(K)	ケーララ州	T	タイ
I(O)	オリッサ州		
I(T)	タミルナドゥ州		

198 の文献を主題で見えていくと、自然資源のアセスメントや船や網についての技術開発などに関する自然・技術系と、漁民社会の向上に関する社会科学系の2つに大きく分かれる。もう少し詳しく述べるなら、前者には、資源、漁船、網、港湾、養殖、捕獲技術、技術移転などがある。また、後者については漁村の社会・経済分析、資源管理に関わる社会体制、女性の労働、教育、貸し付け戦略などが含まれる。自然・技術系の文献が122冊(61パーセント)、社会科学系の文献が76冊(39パーセント)である(表2、図2)。前者が後者のおよそ2倍弱といえよう。ほかの類似のプロジェクトとの比較が必要だが、社会科学系の文献がかなり多いと考えても良いのではないだろうか。

地域別に見ると、インドについての研究が3割(71冊)を占め圧倒的に多い(表3、図3)。これにバングラデシュ、スリランカ、モルディヴが続く。マレーシア、タイ、インドネシアは10冊に満たない。インドだけを見ていくと、71冊のうち、タミルナドゥ州を扱っているのが27冊と圧倒的に多い。それに続いて、オリッサ州とインド全域(5州)のそれぞれ10冊が

表2 テーマ別による分類

テーマ		冊数
社会科学	社会・経済	37
	女性	6
	教育	9
	家族	1
	市場	10
	貸し付け	6
	資源管理	6
	消費	1
	小計 (社会)	76
自然・技術	資源	34
	漁船	30
	網	23
	港湾	3
	養殖	24
	捕獲技術	4
	その他	4
小計 (自然・技術)	122	
総計	198	

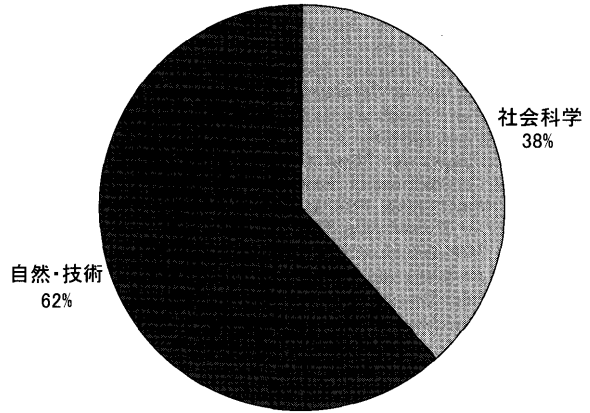


図2 分野別分類

表3 国別による分類

国 別	数
バングラデシュ	27
マレーシア	9
モルディヴ	11
スリランカ	26
タイ	6
インドネシア	8
インド全域 (5州)	10
アーンドラ	9
西ベンガル	6
ケーララ	4
タミルナードゥ	27
オリッサ	10
タミル・アーンドラ	3
アーンドラ・オリッサ	2
インド小計	71
複合	
インド・バングラ	2
インド・スリランカ	1
インド・タイ・インドネシア	1
インド・モルディヴ・スリランカ	1
ベンガル湾全域	35
総計	198

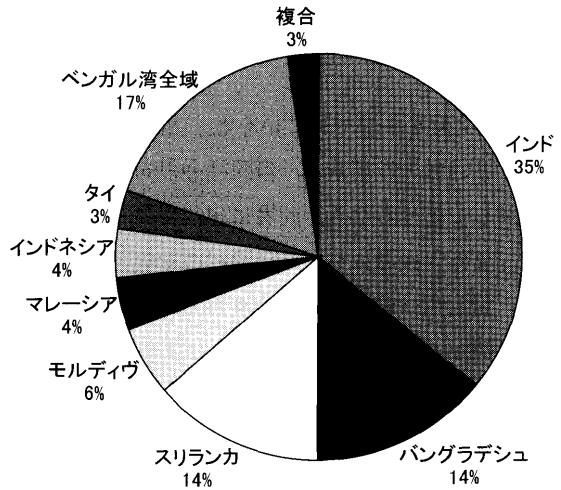


図3 国別分布

続く。タミルナードゥ州に集中している理由は、このプロジェクトの本拠がタミルナードゥ州のチェンナイにある、ということと密接に関係しているであろう。

特定の国に関わっていない文献が 35 冊ある。これらのテーマについて考えてみると、ここでも自然・技術系の文献が 26 冊、社会科学系の文献が 9 冊 (表 4) で、全体の割合とほぼ対応している。自然・技術系文献が特定の地域に関係しない、ということは十分に予想されることである。これにたいして、地域に特定しない社会科学系の文献とはどのようなものだろうか。1 つは、論文集のたぐいで、各論文がそれぞれ異なった地域について論じているものである。論文集 2 冊を除く 7 冊はワークショップの記録を一冊にまとめたもので、その単位は国である。9 冊のうち社会・経済についての研究が 4 冊で、残りが資源管理、教育、女性、家族となる。

ここではその 1 つ、*Role of Women in Small-Scale Fisheries of the Bay of Bengal* (1980, BOBP/REP/4) を紹介する。本書は BOBP の初期の報告書で、インド、バングラデシュ、マレーシア、タイ、スリランカの 5 ヶ国が対象となっている。本書の基本的な問題意識は、小規模漁業の発展には女性の地位向上が不可欠であるにもかかわらず、彼女たちを取りまく生活環境や労働条件についてほとんど知られていないという点にある。5 つの国で類似の調査を行い、資料を収集している。

本書は、1979 年に予定された会合のために、各国の担当者が収集した類似の資料が基になっている。まずこれが、国別 (ただし、インドは、西ベンガル、オリッサ、アーンドラ・プラデーシュ、タミルナードゥ、ケーララの州別) に紹介されている。そこでは、女性の労働の種類と行政との関係が呈示され、つぎにベンガル湾地域の漁民女性たちの状況と生活向上の可能性について論じている。本書は、総論と各論とがうまく釣り合っている報告書の典型である。ただ、欲を言えば、国あるいは州別の各論と総論との間に、トランスナショナルな動きや活動を示す資料が挿入されているならより動的な分析ができたであろう。

表 4 ベンガル湾地域全体に関わる社会科学系の報告書

番号	冊子タイトル	テーマ	形式
DIFD 1	<i>Study on the impact of the DFID Post-Harvest Fisheries Project</i>	社会・経済	全域
DIFD 2	<i>Study on the impact of the DFID Post-Harvest Fisheries Project</i>	社会・経済	全域
MIS 6	<i>Helping Fisherfolk to Help Themselves : A Study in People's Participation.</i>	社会・経済	全域
REP 15	<i>Report of the Consultation-cum- Workshop on Development of Activities for Improvement of Coastal Fishing Families.</i>	家族	全域
REP 4	<i>Role of Women in Small-Scale Fisheries of the Bay of Bengal.</i>	女性	全域
REP 5	<i>Report of the Workshop on Social Feasibility in Small-Scale Fisheries Development.</i>	社会・経済	全域
REP 6	<i>Report of the Workshop on Extension Service Requirements in Small-Scale Fisheries</i>	教育	全域
REP 86	<i>Report of the Regional Symposium on Marine Protected Areas and their Management</i>	資源管理	論集
REP 90	<i>Report of the National Workshop on the Code of Conduct for Responsible Fisheries.</i>	資源管理	論集

## 4 漁民女性の地位をめぐる

BOBP は発足当初から女性の地位や活動に注目してきた。ここではそれについてのレポートのうち代表的なものを取りあげて考察したい。それらはまず、1982年に公開された *Three Fishing Villages in Tamil Nadu: A Socio-Economic Study with Special Reference to the Role and Status of Women* (E. Drewes, no. 14), つぎに1985年出版の *Factors that Influence the Role and Status of Fisherwomen* (Karuna Anbarasan, no. 33), やはり1985年の *The Organization of Fish Marketing in Madras Fishing Harbour* (M. H. Kalavathy, no. 39), 最後に1991年の *Improving Marketing Conditions for Women Fish Vendors in Besant Nagar, Madras* (Kesang Menezes, no. 66) である。*Three Fishing Villages* から *Improving Marketing Conditions* までおよそ10年が経過しているが、その間にBOBPの視点は変わったのだろうか、それとも変わらなかったのだろうか。具体的に言うと、これら4書はすべて、漁業に関わる女性の労働のうちでもっとも一般的な魚の販売をテーマにしている。これらがどういう視点から論じられているのか、そして、どのような方法で資料を収集しているのかを見ていきたい。

4.1. *Three Fishing Villages*.

*Three Fishing Villages* は、いわゆる「開発と女性」(Women in Development, WID)の視点から、女性の役割を強調し、そのための前提となる実証的な資料の収集をめざすというものである。たしかに、1982年当時漁村の女性に焦点を絞った研究は皆無であった。本調査は、このような問題意識のもとで、チェンナイ周辺(南に10キロから50キロの間)に位置するが、都市化の影響をほとんど受けておらず、どちらかという孤立している3つの漁村の女性について調査している。これらの漁村の人口はそれぞれおよそ人口400名で、14歳以上の女性300人にインタビューをしている。

本書は、短いながら、包括的な視点から貧しい専業漁業の村落を描いている。女性たちは、魚を外部に運んで売るといった役割を担っているため、家庭内でも相対的にのおおきの力を有する。彼女たちがいないと魚の販売できないからだ。しかし、公共の場では、女性はそこから排除されている。すなわち、村会や、政治的な活動に表立って参加することは禁じられているのである。

漁法は地引き網と刺し網で、後者は筏(カトゥマラム)漁で使われる。筏は個人所有で、3つの村のなかで、A村はほぼ全世帯、他のB村とC村ではほぼ半数が所有する。ところが網を所有するのはきわめて少数である。

本書は、女性たちのインタビューを通じて、家族構成や女性の婚姻年齢などを紹介している。9割は一組の夫婦とその子供たちからなる核家族で、未婚の女性は親と同居し、魚を売りに出

ることもない。核家族が増えたのは最近の現象だという。このため、若い妻は義母の監督から自由であるが、同時に、小さい子供がいると魚を売りに外に出ることもできない。著者は未婚の女性たちが潜在的な力を有すると考えている。

結婚し、子育ても一段落した女性は、夫が獲った魚を売りに出る。買ったたかれるのがおちだから、競りに出すことはない。女性が魚を売りに出ないのは、家族の他のメンバーがやっていたり、自転車で魚を売る外からの行商人にときに売ったりする場合である。行商人からは、多くの漁民が借金をしている。夫がたくさん魚を獲った場合、一人では売れ切れないからほかの女性たちに売る。また寡婦など、家族から魚を手に入れることのできない女性たちは、恒常的に他の女性から仕入れている。魚は頭に乗せて運ぶから、一人が売る数量は限られている。氷は、村で入手できないので、チェンナイで売られるのをぞいて使われない。氷がないため、長い間鮮魚を置いておくわけにはいかない。しかし、家事などで市場に行くのが遅れることもあるし、強い日差しを避けて、夕刻まで村にとどまる場合もある。市場だけでなく、近隣の農村にも魚を売りに行くが、雨だと道が冠水し、魚を運ぶことができない。その際は、バスやローリーが使われることもある。

女性は、市場で魚を売って、食材など必要なものを買って帰る。夫は、たばこ、酒、コーヒーなどの小遣い銭を毎日もらう。さらに、魚の販売に関わっている女性に顕著なことだが、網やその他の漁業道具を購入する際、強い決定権を持つ。

漁民たちは、外部から来る商人からまとまった額のお金を借り、その代わりに魚を供給する。かれらが依拠するのは銀行などではなく、商人、とくにエビの買い付けに来るエビ商人である。かれらにエビを売り、売値の半分が負債の支払いにあてられる。エビの値段は固定されていて、安価だ。しかし、漁民たちは、お金を借りやすいこともあって、自分たちでエビを小売りにしないで、商人に売る。

さらに、女性や村長へのインタビューを通じて、教育(出席率)、文盲率、栄養などの実用的データが集められている。

本書の著者は、漁民たちが生活向上のためになにが必要なのか、と問いかけている。多くは、もっと多くの網だ、と即物的に答えている。また一部に販売の運搬手段の改良などが指摘されている。単純に考えれば、多く魚を取り、それを一手に販売できれば現金収入が増える。だが資源は十分なのか、と自問する。また価格は量によって決まるから大漁の際はそれにあつた戦略が必要であろうと指摘する。

本書は、漁村の一般的な概要、女性の労働活動や労働条件、彼女たちはなにが生活向上に必要なのか、それは客観的に見て正しい認識なのか、を論じている。方法は、質問表に基づくインタビューであり、ときにグループ討論の手法も取り入れられている。調査者による観察に基づく記述はここには現れていないが、金貸しを兼ねるエビ商人との関係についての記述は民族

誌的にも興味深い。これに数名の女性たちの事例分析が追加すれば、より包括的かつ個別的な資料の呈示と分析が可能であったろう。また、女性の地位が男性との関係に大きく影響されることを考慮すると、夫からのインタビューも必要であったと思われる。

#### 4.2. *Factors that Influence.*

*Three Fishing Villages* は、チェンナイからそれほど遠くない村の調査であった。2つ目の書物、*Factors that Influence* も調査地は類似している。およそ1年かけた調査に基づき、チェンナイから遠くない3つの村を対象にしている。動力船がなく、ほとんどが筏だという状況も似ている<sup>4)</sup>。

これらの村では魚は競りにかけられる。その一部は村の利益となる。漁業に関する仕事のうち、女性たちは販売、(エビの皮むきを含む)加工、網の修理に関わる。すくないが野菜を売る女性もいる。

本書の特徴は、女性の一生を結婚から丁寧に追うことで、女性の劣位がいかに強化されていくのかを辿っていることである。また選挙の際に投票する候補者を強制するなど、女性に自由な選択がないことを明らかにしている。そして、たんに仕事をもって、家計に貢献しているだけでは地位の向上につながらないと指摘する。ここで念頭に置いているのは、なにを買うのかといった購入の決定権である。それは男性に任されていることが多い。とはいえ、一定の収入のある女性は、家計への貢献も大きく、家庭内での地位は高い。また仕事の内容にも差があり、直接生産に関与しない魚の販売は仕事として地位が低い。

本書では、女性の地位に影響を与える要因について、108名の女性にインタビューをし、大きく2つの要因を呈示している。1つは集団的要因、もう1つは個人的要因である。

集団的要因は、経済、技術、文化などである。チェンナイのような大都会に近いことで、この調査地域は経済的な要因によって多大な影響を受けてきた。たとえば、競りは10年ほど前に3つの村に導入されたが、その理由は主として村の歳入を高めるためであった。3つのうち、2つの村では女性が競りに関わるが、残りの1つは男性が競りを仕切っている。女性に関わる2つの村での競りについて述べると、村の外からやってくる男性の商人たちが優勢で、女性たちは不利な立場に立たされる。男性たちが良い魚を独占し、女性たちはこれを手に入れることができなくなるのだ。そして、競りでは、男性商人から漁師は直接現金を受け取ることになる。こうして女性たちは現金収入の道から排除されていく。

都市での魚の需要が高まり、その価格は高騰しているため、都市で魚を販売する行商人の方が買値は高い。女性はこれに手が出ないし、都市に運ぶ手段の資金もない。結局、都会では売れない、質の落ちる魚を近隣の村で売ることになる。それはあまりもうけになる仕事とは言えない。このため、販売をやめてしまう女性もいて、家庭での地位をさらに低めてしまう。また



ナイロン・ネットや網製造機械の普及は、伝統的な綿糸の網の作りや修理に関わっていた女性たちの地位を低めることになった。あたらしい網によって獲れる魚は、巨大なものが多くて女性には運ぶことができないので、対外の商人がこれを販売する。同じくエビについても専門のエビ商人が外部から介入している。

さらに、貨幣経済の発達は、女性の物々交換に依存する割合を減少させている。過去には、女性が魚を売って得てきた野菜などが重要であったが、今は貨幣さえあればどこでも、だれでも欲しいものが買える。

一般に、女性の労働は、直接生産と関係がないため無報酬で、社会的にも低く見られている。代わりに、網など生産手段を所有し、実際に生産に従事する男性が重視される。生理中の女性は、網などに触れてはいけないし、浜に出てこれから漁に出る男の前を横切ってはならない。こうした禁忌は、生産に関わる男性とそうでない女性を過剰に対比させ、ますます女性の労働の価値を低めることになる。

個人的要因とは、教育、年齢、仕事、結婚の有無などである。これらが集団としての女性の地位に影響する要因と複雑に結びついている。

ここでは省略するが、本書は付録として三名の女性のくわしいライフ・ヒストリーを掲載している。これによって、読者は一般的な記述に終わりがちな漁民たちの生活を、より具体的に理解することが可能である。

#### 4.3. *The Organization of Fish Marketing*

3つ目の書物、*The Organization of Fish Marketing* は1984年の調査に基づくもので、チェンナイ港で活動する女性たちに焦点が当てられている。チェンナイにはおよそ500の動力船が水揚げしており、そのほとんどがトロール船である。ここで対象となっている女性は、競り担当者、小売り、雑魚(干し魚)の商人などである。その数は数百人に上る。彼女たちの8割は、漁船の所有者にお金を貸すことでその船で獲った魚をすべて競りにかける権利を得る。彼女たちは競りにかかる魚の何割かを自分のものとして売ることができる。船の乗組員たちや競りで魚を買う女性にもお金を貸すことがある。

最初の書物と違い、本書では個別事例を通じて論を進めている。まず競りを行ったり、小売りをしたりする女性、さらに、干し魚を売ったり、男性が中心の輸出部門で働いたりする女性たちが紹介されている。ほかに卸売りも紹介されているが、ここでも男性たちに混じって数人の女性が働いている。

本書は、最後に機械化は女性たちにも多くの労働の場を提供しているが、村での水揚げと異なり、魚へのアクセスにばらつきがあり、女性たちの間に経済的格差が認められると述べている。ただし、これについての実証的な資料は呈示されていない。

#### 4.4. *Improving Market Conditions.*

4つ目の書物、*Improving Market Conditions* は、BOBP のプロジェクトの中でもっとも注目されたものの1つであり、BOBP の活動を端的に示す事例としてビデオも制作された。魚を路上で販売する女性たちの労働条件を改良するための、女性たちだけの市場の建設という明確な目的が設定され、またそれが1990年に実現したことから、当初は女性と開発に関する成功例として位置づけられていた。しかし、10年以上経った現在、女性たちはふたたび路上で販売をしている。本書は市場を建設するまでの経過を報告している。

1987年5月から漁船の技術的な試験のためにベザント・ナガールの浜をBOBPが使用することになった。そして、同じ浜を使っている2つの村の漁師たちとの交流を通じて村が抱えている問題を議論する機会が何度か設けられた。そして、女性の魚販売の場所が問題の1つとして浮上してきたのである。

女性たちは毎日朝5時頃に起きて地引き網の水揚げがなされるころまで行き、魚を買い、これを路上で売る。昼頃まで魚を売って、一度家に戻り家事などを終えてから、ふたたび夕方5時から8時まで魚を売る。市場がないと、一度に多くの魚を購入することはできない。また場所も確定していないから、場所の確保をめぐる競争関係にあった。市場は、こうした問題を少しでも解決してくれるものとして位置づけられる。路上では、日陰もなく不衛生で、ときには警官の嫌がらせに悩まされ、労働条件は最悪であった。不衛生のため上客は避けてしまう。女性たちが求める市場とは、こうした問題を克服し平穩に、そして威厳をもって魚を売ることのできる場所であった。

BOBP は、女性の調査員を派遣し、彼女たちが中心になって魚販売の問題に取り組むことになった。これが1988年5月のことである。そして市の担当局と相談し、市場の設置が認可された。市場の建設は市が行い、それを経営する女性たち44名をBOBPが訓練することになった。しかし、建設はなかなか進まなかった。結局、それから1年後の1989年6月に建設が始まったが、周辺住民の反対や水道施設の問題から建設はすぐに中止された。このため新たな候補地探しが始まり、バス・ターミナルのすぐ裏手があたらしい候補地に選ばれた。これは村から近く立地条件が適していた。そして、7月から12月にかけて建設が始まり、1990年6月に建設が終了した。女性の方も経営母体を整え、8月から市場の経営を開始した。市場開設の式典には二人の州政府の大臣も出席した。

報告書が強調しているのは、魚を売るという共通の労働以外にはばらばらに動いていた女性たちが組織され、自分たちで市場を経営することができるようになったという事実である。そしてこの変貌を可能にしたのが、1988年5月からBOBPによって始まった毎週金曜日の会合であった。同時に女性たちによる頼母子講が組織され、そのお金で市に前金4,000ルピーを払うことができた。また女性たちの結束も強まった。

さらに、1989年1月から1990年4月にかけてBOBPは11回の1日間のトレーニング・セッションを導入した。それはリーダーシップの必要性、販売のシミュレーション、ほかの市場の見学などからなる。このようなトレーニングを通じて、女性たちは自分たちの置かれている状況を把握し、実践的な知識を獲得していった。

残念ながらこのプロジェクトは失敗に終わった。その理由については、まず市場ができた当初からも路上での販売を続ける女性がいたこと、そして、その販売がうまくいっていたことがあげられている。つまり、女性販売者の間で、実際には十分な結果が図られていなかったということである。あるいは最初から、市場の建設に参加しなかった女性がいたとも考えられる。というのも、BOBPによると、建設当初からも路上での販売が完全になくなったわけではなかったからだ。

以上、漁村の女性、とくに魚を売る女性たちに焦点を当てた4つの報告書(Working Paper)を紹介したが、ここからなにを指摘することができるだろうか。どれもA4版で40頁ほどの短いものだが、2冊には女性たちのプロフィールなどが詳述されていて、この地の女性たちの活動を知るうえで有用である。また、4冊を読むことでチェンナイ周辺の漁村が直面している問題なども明らかとなってくる。これらは、アンケート調査に基づく経済的な分析に終わらず、具体的な女性たちの顔が見えるという意味で貴重な研究となっている。また、*Improving Market Conditions*では、いわゆるアクション・リサーチのあり方がよくわかる。アクション・リサーチは、BOBPの活動を通じて具体化してきた方向だと理解したい。*Improving Market Conditions*においては、役人の発言なども記録しており、新鮮である。

ここで問題を2つあげておきたい。1つは、前節でも指摘していることだが、これらの報告はすべて事例研究であり、チェンナイ周辺の漁村、そこで生活する女性たち、という視点を越えることはない。それが特殊なのか、特殊だとすればどう特殊で、その理由はなにか、など個別事例を相対化する視点が見えてこない。これはベンガル湾全体を視野に入れたプログラムの一環であることを考えるとあまりにも個別事例の域を出ていない報告書ということになる<sup>5)</sup>。

つぎに、「開発と女性」(Women in Development, WID)について批判されてきたことだが、女性が直面している問題はわかっても、それだけでは不十分だということである。WIDとは、開発がかならずしも女性の地位向上に結びつかないという反省から、1970年代後半に現れてきた考えで、萩原[2004:246-247]によると、つぎの3つの目的がある。まず、女性が開発に果たしている役割を正しく評価する、つぎに、女性も男性と同等な立場で開発に参加する。最後に、開発がもたらす利益を女性も公平に受け入れられるようにすることである。しかし、WIDのアプローチでは、以下のような理由から男女間の不平等は解決しない。すなわち、雇用機会などが増えても、女性の賃金が低く抑えられ、家事や育児が女性に任されていると、さ

らに負担がふえ仕事がかどらない。それが、女性の能力の低さの証明となり、既存の不平等関係を強化し、女性の地位をさらに低くするというのである。このため後に、「ジェンダーと開発」(Gender and Development, GAD) があたらしい視点として提案されることになった。ここでは女性ではなく、開発にあたって女性と男性(夫など)との関係こそ問われなければならない、そしてその関係の改善を目的としなければならないということが主張された。萩原[2004: 251]によると、GADアプローチではジェンダーの理解促進、周辺の立場にいる人々(男女)のエンパワーメント、女性をひとくくりに見ないことなどが重要なポイントとしてあげられている。ここで吟味した報告書にも、理想的には女性たちが関係するさまざまな領域での男性との関係、また男性側の女性たちへの態度についてのデータを含めるべきであろう。

## 5 考 察

最後に、冒頭で掲げたいいくつかの「地域」概念を吟味するかたちで、BOBPの活動についてまとめておきたい。まず、BOBPが呈示する地域とは、原則としてベンガル湾に接している地域ということになるが、モルディヴについては11冊の研究書があり、国別ではマレーシアやタイ、インドネシアより多い。インドについては西ベンガル、オリッサ、アーンドラ・プラデーシュ、タミルナードゥ州の他に西側のケーララについての報告書も数は少ないが存在する。また論文集においてはフィリピンなどが含まれている場合もある。その意味でBOBPの活動は支援国だけに限らないとも言えるし、またベンガル湾地域に位置すると言えにくいものも対象となっている。しかし、それ自体はとくに批判すべきことからではあるまい。

ベンガル湾全域に関わる文献もあるが、自然・技術系の場合を除くと、論文集かワークショップの成果をまとめたものである。地域全体を視野に入れた積極的な議論は数少ない。換言すると、資源のアセスメントなどを除くと、国単位(あるいはさらに、その一部でしかない村落調査)での調査とそのまとめ以上のものは見あたらない。

BOBPの対象は、もともと小規模漁業とその担い手である漁師ならびに漁村の生活向上にあった。そして、国家機関(とくに漁業省などの関係機関)との橋渡しを重視している。各地の多様性を前提としたアプローチではあるが、国境を越えるかたちでの漁師たちの協同を促すといった提案はなされていない。地域を共有する国家の存在を認め、その枠内での開発である。その結果、見えてくるベンガル湾という地域は国家の集まりでしかない。

漁民たちの価値観や技術のレベルについては十分な考慮がなされ、開発や変革を実施するにあたって政府や関係機関との交渉が重要であることが明らかにされている。それは、底辺の漁民たちと政府とを結びつける、いわば縦の関係に焦点を当てていると言えよう。たしかに、政府との関係が漁民の生活向上にとって重要なのは言うまでもない。しかし、そこに漁民たちの

横のつながりは見えてこないし、またそのような関係を見ようとしていない。たとえば、国境を越えたとは言わないとしても、村を越えたつながりを提供する婚姻ネットワークやカースト・ネットワークへの言及はほとんどされていない。インド東岸の漁民たちは、出稼ぎ漁民が多い。だとすれば、かれらと出身村との関係などを視野に入れた考察が必要であろう。

最後にアパデュライのスケイプ論についても触れておきたい。1980年代にはすでに南アジア地域では中東への出稼ぎが盛んになっていた。筆者が1982年の夏からおよそ一年半滞在していたスリランカの漁村にも中東への出稼ぎ経験者が存在した。ケララ州ではもっと盛んであったろう。バングラデシュなども早くから出稼ぎが見られたはずだ。これは地域を越えたネットワークであり、漁村の生活向上という視点から出稼ぎ労働者からの仕送りというのは無視できない。これはアパデュライのエスノスケイプに関係する問題であると同時に開発とも密接に関係していよう。

スケイプ論との関係で、もう1つ注目したいのは国際的な開発機関のあり方である。BOBPはFAOの傘下に位置づけられるが、その支援母体はスウェーデンであり、のちにデンマークや日本となる。こうしたつながりを、アパデュライの言うファイナンススケイプに含めてもいいのではなかろうか。ベンガル湾という地域、しかも小規模漁業を対象とする開発プログラムに遠く離れた漁業先進国が支援母体として関わってくる。そこには、村落の経済的自立を中心とする地域の発展という考え方に収まらない先進国の国家戦略が認められよう。

## 6 お わ り に

BOBPという国際開発プログラムの考察から明らかになったことは、例外はあるにしても基本的には国家単位での研究と開発の促進であり、その集積であること、さらにBOBPを舞台とする支援国家間の関係が垣間見えることである。換言すれば、ベンガル湾という地域を前面に出すことで、積極的に国家間の敷居を低くしようとする動きや、漁民たち自身のトランスナショナルな動きを活性化したり、あるいは現実に起こっているような移民の実態を考察しようとしたりする視点は、BOBには欠落しているのである。

インドネシア・スマトラ沖地震と津波で、インドネシア・アチェ、タイ、スリランカ、インド東南部などが被害受け、多くの人々が亡くなった。BOBPが対象としていた地域は、皮肉にも災害を通じて、密接な関係にあることをわれわれに教えてくれた。災害というできごとが、普段は国境で分断されている地域に一種のまとまりを与えたのである。被害者の多くが海辺に暮らす小規模漁業従事者であったということは想像に難くない。BOBPを引き継いだBOBP-IGOが大地震以後どのような活動をしているのか、そして、これをきっかけにより有機的な地域観や活動が生まれたのだろうか。今後の課題としたい。

謝辞 BOBP には 1988 年からお世話になっていた。とくにその調査員であった M. H. Kalavathy 氏からは多くを学んだ。また二度のインタビューに答えてくれた 2002 年当時の責任者である Y. S. Yadava 氏にも感謝したい。本稿の骨子は 2003 年 7 月に開催された南アジア研究会にて報告された。また本稿は COE 拠点形成プロジェクト『アジア、アフリカにおける地域編成』（白石隆代表 1998 - 2002 年度）の成果である。

## 注

- 1) 地域概念および地域研究と国家戦略との関係についてはモーリス＝スズキ [2005] を参照。
- 2) モーリス＝スズキは、同じような問題意識から「反地域研究」を提案しているが、それは、虫瞰図的な視点の探求と言うよりは、グローバルな展開における地域のあらたな連携の可能性を探るという視点で、後で紹介するアパデュライの問題意識に近い。松田の提案は、最近注目されている空間 space や場所 place の文化人類学を想起させるものであるが、これについては西井 [2006] を参照。
- 3) マレーシアは、小規模漁業がそれほど盛んでないことなどを理由に参加しなかった。BOBP-IGO については、<http://www.bobpigo.org/contact.htm> 2005. 9. 1 を参照。
- 4) 3 村の規模は、家族数がそれぞれ 449, 117, 86 で、人口が 2,179, 607, 338 である。
- 5) 他の報告書の成果への言及さえほとんどなされていない。

## 参考文献

- アパデュライ, アルジュン 2004 (1996) 『さまよえる近代 グローバル化の文化研究』（門田健一訳）平凡社。
- 梅棹忠夫 1974 (1967) 『文明の生態史観』中公文庫。
- 田中雅一 1992 「スリランカ・タミル漁村における女性の地位 親族組織と経済」『西南アジア研究』36: 48 - 56。
- 西井涼子 2006 「社会空間の人類学序論」西井涼子・田辺繁治編『社会空間の人類学——マテリアリティ・主体・モダニティ』世界思想社。
- 萩原なつ子 2004 「開発は女性を解放したか」田中雅一・中谷文美共編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社。
- 松田素二 1993 「地域形成のダイナミズム アフリカの経験から」『総合的地域研究』2: 21 - 23。
- モーリス＝スズキ, ティッサ 2005 「反地域研究 アメリカ的アプローチへの批判」『地域研究』7 (1): 69 - 89。
- Anbarasan, Karuna 1985. *Factors that Influence the Role and Status of Fisherwomen* (BOBP/WP/33).
- BOBP 1980. *Role of Women in Small-Scale Fisheries of the Bay of Bengal* (BOBP/REP/4).
- Drews, E. 1982. *Three Fishing Villages in Tamil Nadu: A Socio-Economic Study with Special Reference to the Role and Status of Women* (BOBP/WP/14).
- Kalavathy, M. H. 1985. *The Organization of Fish Marketing in Madras Fishing Harbour*

FAO Bay of Bengal Programme (1979–2000) における地域概念 (田中)

(BOBP/WP/39).

Menezes, Kesang 1991. *Improving Marketing Conditions for Women Fish Vendors in Besant Nagar, Madras* (BOBP/WP/66).

インターネット

Bay of Bengal Programme Inter-Governmental Organization.

<http://www.bobpigo.org/contact.htm> 2005.9.1